

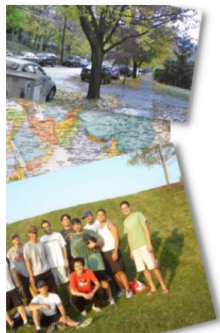
<<



神奈川大学ノート

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+ フォロー



プロローグ

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をご紹介します。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずに、このようなこともあるのだからと気楽に読んでもらえればと思います。

世界へ羽ばたけ

♡ 8

松本 太

工学部・電気自動車専用リチウムイオン電池、燃料電池



留学生時代のチームメイト

プロローグ

私は1968年生まれ。小中学生の時には野球に熱中し、外国人に初めて会ったのは高校生になった時、海外はまさにテレビの中の世界で、日本テレビで毎年行われていたアメリカ横断ウルトラクイズを見て、アメリカは広いんだなということを感じていました。メジャーリーグベースボールのオールスターチームが日本に来て試合をするのを見て、すごいパワーだなと驚いていた世代です。時は過ぎ大学生になると、今考えると何となく海外に出かけることが頭に出てきた時期で、読書と映画が趣味で、読んだ本は『深夜特急(沢村耕太郎著)』、『遠き落日(渡辺淳一著)』など旅もの、留学もので、映画はバック・トゥ・ザ・フューチャー、フィールド・オブ・ドリームスなど、まさにアメリカ的な映画でした。大学院生になると研究室には中国、インドの学生がおり、野茂英雄がメジャーリーグベースボールで大活躍をはじめ、サッカーワールドカップに日本が初出場と、常に世界を意識することが日常になってきました。私だけでなく、日本中が世界に目を向けてきた時代です。私も世界を目指し出ていきました。自分では、いろいろ準備してから海外へ出た

という気でしたが、準備はほとんど効果が無く、すべてにおいて失敗を繰り返し、多くを学ばなければならない状況でした。海外生活は5年に及びましたが、この中で様々な経験をしました。横断歩道を渡っているときに、止まっている車から急にクラクションを鳴らされ、びっくりして横断歩道を渡のをやめ、なぜクラクションを鳴らされるのかがわからず、どうしようもなくなってしまって、悔しくなり、寂しくなってしまったこともありました。しかし、今考えてみるとあの時の経験は私の大きな財産になっており、何でも一から立ち上げられる自信になり、挫折した時にも努力すれば「またできるさ」というような気になれます。皆さんも海外に出て初めての世界で新しい生活、新しい人間関係を作り上げるところから始め、自分自身の力を試してみてはいかがでしょうか？

この作品では、私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をご紹介します。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずに、このようなこともあるのだなと気楽に読んでもらえればと思います。私がしてしまったような失敗をせずに楽しく海外生活を過ごし、海外でも生活できる自信と交友関係を築いていってください。これらは人生の本当の自信と良い思い出になるでしょう。著者も、皆さんがかけがえのない経験をしてくれることを願って書きました。楽しんで読んでいただければ幸いです。

2023年2月 松本 太

【各章目次一覧】

※各章のタイトルをクリックしていただくとページに飛びます

第一章 入国・出国・ビザ・パスポート

- 1.ビザ取得 最初の難関です。
- 2.O-1ビザ お前は何者？
- 3.もう少し入国審査の話
- 4.飛行機の中でやっておくべきこと
- 5.飛行機の乗換をスムーズに
- 6.出国あるある

第二章 英語でのトラブル

- 1.何度言っても伝わらなかった英語の発音
- 2.やらかしてしまった私の英語

第三章 住宅・保険・食事

- 1.アメリカの住宅事情
- 2.アメリカでの生活で苦労したことBest1
- 3.アメリカの保険事情
- 4.パーティーに参加

第四章 交通・安全

- 1.旅先で出会った悪い人・良い人？
- 2.私が感じた人種差別
- 3.運転免許証の取得
- 4.自動車の取得

第五章 お金・仕事

- 1.就職活動
- 2.貯金が消えた！
- 3.同僚が消えた！

エピソード

松本 太

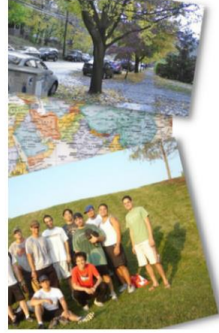
神大の先生では、神奈川大学の教員情報やゼミ・研究室をご紹介します！気になる学部・学科、専門分野、キーワードで神大の...
www.kanagawa-u.ac.jp

神大の先生

-ゼミ・研究室-



もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさん「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。


 フォロー


第一章

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をご紹介いたします。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずに、このようなこともあるのだから気楽に読んでもらえればと思います。

第一章 入国・出国・ビザ・パスポート

♡ 7


 神奈川大学ノート
 2023年2月16日 15:34


[◀プロローグ](#)

 [第二章 英語でトラブル▶](#)

ビザ取得 最初の難関です。

海外に長期滞在するときには、ビザが必要です。ビザなしでどれだけ滞在できるか、訪問の目的によってはビザが必要など、ビザについての知識は海外に行く人にとっては重要です。私はアメリカなどに長期滞在したことがあるので、ビザの取得は4回行っていきます。研究員としてアメリカの大学で働いたときは、ビザのタイプとしては交流訪問者のJ-1ビザでした。大学で勉強するために来ている周りの日本人の学生はF-1でした。J-2などのように2が付くのは、J-1ビザを取得した人の家族が取得できるビザです。目的によってビザのタイプが違います。留学などで海外に長期滞在するとき、まずはビザの取得が最初の大きな関門になるでしょう。ビザの申請には、海外の受け入れ機関からビザ申請の書類を送ってもらって、ビザの申請書に付けることが必要です。次に、渡航する国の大使館・領事館にビザ申請を行わなければなりません。私も初めて海外で働くためにビザを所得した時には、何もわからなかったため、かなり苦労しました。ビザ申請の書類の不備は絶対に許されず、不備があると申請が差し戻されます。例えば、出発日が差し迫っている時のビザ申請の差し戻しは、かなりの痛手です。どうしても一度で通したい、しかし、あまりわからないという人は専門の業者がいるので（費用は掛かりますが）、その人たちに準備書類を十分にチェックしてもらってから申請するのがお勧めです。特に家族と一緒に海外の長期滞在学习に行く場合には、様々な書類が必要になるため、かなり前もってやるか、あるいは専門業者をお願いするようになります。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー



海外旅行では必携のパスポート。期限10年(赤)と期限5年(紺)とがある

ビザを申請しに大使館に行くことは、まさに外国に行くことと同じです。日本国内ですが大使館内は外国です。アメリカの大使館は東京の赤坂にありまい警備です。ここでやりがちの失敗は、荷物を持って入ろうとしてしまうことです。警備の関係上、ちょっとした手さげバッグでもNGです。荷物を持ってきてしまった人は、ちょっと歩いて見つけにくい「コインロッカー」に荷物を置いて来い”と高圧的に言われ、冷たく警備員にあしらわれます。さらに、荷物を置いてきた後には、また長蛇の列の後ろにもう一度並ばされます。ベストなのは、申請書類を封筒に入れ、小さな財布と携帯電話程度で申請に行くことです。荷物を持っていくのであれば、あらかじめコインロッカーに荷物を置いてから並ぶのが良いでしょう。私も実は初めての時にこの失敗をしてしまい、大変時間がかかってしまいました。例えば1時間待った挙句、大使館に入る直前のセキュリティーチェックの時になって、荷物の持ち込みはNGと言われてトラブルになっているところを結構見るので気を付けてください。皆さんは、“お客様、申し訳ありませんが、荷物をロッカーに入れてきていただけますか”のような日本の流儀の対応を想定していると思いますが、これは日本的考えです。警備員が絶対権限者であり、私たちは、警備員に絶対的に従わなければならない状況にあります。基本的に海外に行くことのような、日本のお客様が私たちで、相手が親切に接してくれるということはありません。相手が上から目線の態度で、私たちは従う状況が多く出てきます。この大使館でのビザ申請で初めてこのような人との関係性が変わることが感じられると思います。



これにストレスを感じ、これが海外での生活なのだと感じてください。この感じ方は人それぞれなので、全然気にしない人もいます。その人は

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー

問題ありませんが、気にしてしまう人は、奴隷的な扱いを受けたという考えを持つのではなく、文化の違いであるということを認識して、このようなことにある程度慣れる必要があります。私が取得したことがあるビザは、アメリカの他に中国のビザがあります。中国のビザ取得は上述したような大使館に申請に行く方法がありますが、もう一つの簡単な方法があります。私が行った方法は、横浜の中華街の中にある華僑総会に行って、ビザの申請書とパスポート、さらにビザ申請費用と手数料を払えば、1週間後に華僑総会に取りに行くとビザが受け取れます。アメリカのビザ申請を体験した私からすると、これで良いのか？というような簡単な取得方法でした。国によってビザの取得の仕方はそれぞれであるということを実感した例でした。

0-1ビザ お前は何者？



飛行機に乗って外国に着くと入国審査が行われます。ここから緊張がぐっと盛り上がってきます。この入国審査でも私は様々な経験をしました。アメリカの場合、アメリカ国内が経由地であっても（例えばロサンゼルス経由でブラジルに行く場合でも）アメリカで入国審査を受ける必要があります。アメリカ国内の旅行でも大きな空港に着くと入国審査があり、審査を受けてから国内線の飛行機に乗り換えることもあります。時間に余裕がないと、入国審査に時間を取られ乗り換えができなくなる等問題も生じ、さらにストレスを感じます。入国審査では審査官が何人かおり、それぞれのところにずらっと人の列ができます。人が少ない列に回ったりする人を良く見かけますが、列を移っても結局、前の人がビザの問題で時間を取ったりするので、すぐ抜かれるかは運次第です。ここは心を落ち着かせ、自分の番が来るのを静かに待つことが良いと思います。もし遅れそうであれば、列の整理をしている係員に、乗り換えに遅れそうだと伝えてみると良いでしょう。係員は何時出発どの航空会社なのかを見て判断し、間に合わなさそうな場合は優先ラインに誘導してくれます。私は入国審査には2時間は掛かると考えているので、飛行機の乗り換え時間は最低でも2時間半の余裕を持って予約をします。話を戻しますと、私は入国審査を待っているとき、怖そうな審査官のところに行きたくないなと思い、列の後ろから審査官の態度などを見ながら、優しそうかな？、簡単に審査してくれる人かな？ いろいろ質問してくる人かな？等ハラハラしているタイプです。私も結構初心者です。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

さて、自分の番が回ってきました。私は入国審査を、おそらく50回以上は受けていますが、それでも緊張はします。皆さんも自分だけが緊張しているとは思わず、みんな緊張していると思ってください。パスポートと入国審査申請書を出して、にこやかにHi！と言って渡しましょう。どうせ質問は、What's the purpose of your visit? (この国に訪問する目的はなんですか?) とか Why are you here? (なぜここに来たんですか?) Business or pleasure? (仕事ですか、観光ですか?) とか、Are you here for business or sightseeing?, How long will you be staying? などでしょう。もし、皆さんが留学で入国するのであれば、I am going to study English in UCALなどを答えれば良いと思います。私の友人で、研究発表のために学会に出席するので、滞在の目的を for business と答え、説明がうまくできずに別室に通され日本語ができる通訳が用意されたというようなことがありました。皆さんは、留学か観光で入国するでしょうから、「ビジネスのために入国」とは言わない方が良いと思います。

さて、ここからこの文章の題名である“O-1 ビザ お前何者?”のお話です。私は海外の現地企業で働いたことがあります。これは、私がリチウムイオン電池の研究者であったことによります。採用が決まった後に通常は労働ビザを申請しますが、すぐに働いてほしいということで、その会社が私にO-1 ビザの取得をすることを提案してきました。O-1 ビザは、科学、芸術、教育、ビジネス、スポーツにおける卓越した能力の持ち主、または映画やテレビ番組の製作において卓越した業績を挙げた人、ならびにそれらの遂行に必要な補助的な業務を行なう人に発給されるものです。私が想像するに、大谷やイチローなどもこのビザを取得して、メジャーリーガーとしてプレーしているのかなと思います。その後、グリーンカード(アメリカ永住権)を取得し、ビザが必要なくなっているかもしれませんが、このビザを私は2008年に取得しました。ビザは自分のパスポートに貼られます。神奈川大学に赴任してから少し経った後、アメリカに渡航することがあって入国審査を受けました。その時、入国審査官から、“お前何者?”と質問されました。なぜ?と聞くと、“O-1 ビザを持っているではないか”と質問されました。“これなかなか取れないんだぞ”と言われ、“だから聞いたんだよ”ということでした。私はリチウム電池の研究者で現在は日本に戻って大学の先生をやっていると答えると、その入国審査官は「OK」と言って私のパスポートにスタンプを押してくれました。自分では気が付きませんでした。かなりの貴重なビザを取得していたことが分かりました。これ以降、入国審査で自分のパスポートを見せることにちょっとうれしさを感じ、また聞かれないかなと思っていました。パスポートは10年で書き換えになりますので、私のO-1ビザが付いたパスポートは残念ながらお別れになってしまいました。海外生活の唯一の自慢話です。



最後に、友人から聞いた話ですが、ビザやパスポートに押される入国スタンプに関してのトラブルです。例えばアメリカに入国するとき、アメリカに敵対するような国にたびたび入国しているなどのことがあれば、入国審査の時に結構時間が掛かるということをよく聞きます。実際に私の友人は研究に関する学会で中東のある国に行きましたが、その国の入国スタンプがパスポートに押されていたため、その国への渡航理由とアメリカへの渡航理由を詳しく聞かれ、かなり入国審査に時間が掛かったということです。アメリカの入国審査の係官に聞いたところによると、あまりに不明確であると入国できないこともあるという話をしてくれたということです。世界の緊張感が伝わる話でした。

もう少し入国審査の話

入国審査ではありませんが、アメリカにビザなしで入国する場合には、ESTA（エスタ）電子渡航認証システムでの登録が渡航前に必要です。アメリカを経由して第三国に行く場合にも、登録が必要です。渡航 72 時間前までに申請を完了するように推奨されています。私は忘れたことはありませんが、例えば、渡航しようとして空港に行ってチェックインした時点で ESTA の登録がないので出国できないということになり、航空券を完全に無駄にしてしまいます。私はアメリカに行く人、周りでアメリカと一緒に行く人には常に ESTA について忠告しています。ESTA の期限は 2 年間なので、一度申請をしてしまえばもし仮に申請を忘れていたとしても、有効期限内であればセーフになります。私は、やらかす寸前で気が付いた例があります。ESTA の有効期限が大丈夫だよなと考えていたのですが、どの時期に ESTA を申請したのか記憶もあやふやで申請の書類もなかったため、念のため ESTA の申請がインターネットで確認できるので、やってみたら有効期限が切れているじゃないかと冷や汗をかけたことがあります。当然、パスポートの有効期限の確認も必要です。パスポートのトラブルで頻りに聞くのは、ビザ申請時のパスポートの有効期限です。ビザの期限より、パスポートの有効期限が長くないのはなりません。

アメリカの入国審査は、何度やって緊張もします。何でそうなるかというと、入国審査の場所が大きく、多くの人々が並ばれているからでしょう。特に東京などからアメリカに入国するときには、大きな飛行機で来るため一機で 500 人もいたり、例えばアジアから来る飛行機は、ある時間帯に重なるので、数機飛行機の到着時刻が重なれば、1000 人以上の人が入国審査に臨むので、人がごった返していて緊張感が増します。私はある時、乗り換えの飛行機が 6 時間後に出るので急ぐ必要はないと考え、飛行機を一番最後に降り、入国審査のところはかなりゆっくり行ったら、偶然にもほとんど入国審査場に人がいなく、ゆったりした気持ちで審査を受けることができました。もし飛行機を降りたところが最終目的地であり、時間の余裕があるのであれば、なるべくゆったりとした気持ちで入国審査を受けられるようにしてみるのも一つの手かもしれません。

他の国の入国審査の経験としては、中国、韓国、台湾、メキシコ、イタリア、フランスがあります。数は少ないですが、アメリカの場合と比べるとそれ程の緊張を感じることはありませんでした。ちょっとした経験を 2 つ紹介します。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

フォロー

一つ目は 2000 年初頭のアテネオリンピック直後にギリシャに行った時のことです。この時はイタリア経由でギリシャに行きました。イタリアで入国審査がありました。当初は、アメリカのように経由地でも入国審査を行われるのであろうという考えで入国審査を受けました。乗換便をかなりの時間待った後に搭乗して、かなり遅くアテネの空港に到着しました。baggage claimにおいて預けていた荷物を受け取ろうとしましたが、荷物がなかなか出てきません。ようやく出てきたころには、人はいなくなっていました。荷物を持って、人々が出て行った方について行くと驚くことに飛行場を出てしまいました。あれ？入国審査はどこだと、振り返って飛行場の中を見返してしまいました。これはなぜだと思いますか？確かめてはいませんが、私が EU(欧州連合加盟国)の中に一度入国（イタリアで入国審査をしたので、入国審査がなかったのではないかと思います。よく考えてみると、どこの空港でも通常は入国審査後に荷物を受け取るというシステムになっているので、飛行機を降りてからすぐに荷物を受け取る場所に到着したのは、明らかに入国審査が無い国内線を降りた時と同じシステムですね。二つ目は入国審査ではありませんが、メキシコで見た入国審査後の荷物を受け取るころでの光景です。通常は荷物を受け取って、荷物の持ち込みの書類を出して、OKを受ければ空港の入国審査ゾーンを出るわけですが、メキシコではボタンを押せと言われて、言われるがままに押しました。ただ押しただけで何も起こらなかったのが気が付きませんでした。そこを通った後で、同行した人を見ると横で荷物チェックを受けていました。よくよく見てみると、荷物チェックをすべての人にやっている大変なので、そのボタンを押してはくれが出た人だけ、荷物チェックを行うシステムでした。メキシコと言えば、麻薬など怖い国ですが、持ち込みチェックでくじを引かせるというシステムを使っているのがおおらかで笑ってしまいましたね。



飛行機の中でやっておくべきこと

飛行機の中でいかに快適に過ごすかを考えて、到着までにやっておくべきことを紹介したいと思います。まずは入国審査用紙の入手と記入です。飛行機に乗って少し経つとキャビンアテンダントがこの書類を配りに来ます。その時に Visitor(訪問者)の書類をもらいます。本国に帰る人も書類を書く場合がありますので、2種類配っています。該当する方をもらって記入します。この書類は着陸前にもう一度必要な方いますかというような感じで配りますが、私は始めにもらって記入して、その書類をパスポートに挟んでおく派です。この書類の中に入国のために乗ってきた飛行機の便名を書く欄があります。搭乗券を確認して、飛行機の便名を書きます。例えば、ANA345のような便名です。よくわからずにあたふたしている人を時々見ます。もう一つは、滞在先の住所です。ホテルに滞在するのであれば、ホテルの住所を正確

に書かなければなりません。ここが書かれていなかったり、記入が不十分であると、入国審査で加筆を求められたり、いろいろ質問されていたりすることがあるので、ここはきちんと書く時間を取って記入し、私は睡眠に入ることになっています。

この入国審査用紙の記入に関して、私が体験した面白い話を紹介しましょう。日本からアメリカに入国するときには、この書類は日本語版と英語版があるので、英語が分からない人も記入することができます。もちろん、日本語での記入はNGですが。私がメキシコからアメリカに入国するときのことでした。当然、アメリカの入国審査用紙に記入を行わなければなりません。入国審査用紙は、通常英語版も用意されているのですが、しかし、不運なことにその飛行機には英語版がもうないとキャビンアテンダントが言ってきたのです。私は何とか記憶を頼りにスペイン語の審査用紙に、「多分ここには名前を書くんだろうな」などと思いながら記入していましたが、あまりに不安だったので隣の人に聞いてみると、私もスペイン語はわからんということなり、隣の人がさらにその隣の人に聞いてくれました。英語とスペイン語が両方できる人が、ここは住所だ、飛行機の便名だ、入国するとき別便で送った荷物があるかどうかだ、など教えてくれて、周りの人を巻き込んだちょっとしたアットホームな感じになりました。最初はドギマギした気分でしたが、勇気をもって話しかけたことで、世界を旅する旅行者として、愉快な人達に出会い、幸せな気分になりました。

もう一つのやることは、寝て体力を温存することです。飛行機の中は外国ですが、まだ周りに日本人は少なくとももらほらいます。キャビンアテンダントの中にも日本語が話せる人が乗っています。しかし、目的地に着いた後は、国内線に乗り換えたら日本人は誰もいない状況になります。空港を出て街中に出ても、目的地の滞在先に着くまでにはまだ相当時間がかかるかもしれません。最近では、スマートフォンなどの機器を用いて飛行機内でゲームをやってみたり、映画を見たりすることができるので、それらでリラックスすることも必要でしょう。機内でいろいろな人を見てきましたが、長い時間を、機内で快適に過ごすには、まず寝ることだと思います。皆さんもアイマスクや首に着ける空気枕は必須でしょう。時々、本当の枕を持ち歩いている若い人を見ますが、あれはその枕でしか寝られないから持ち歩いているのかなと考えています。



飛行機で必需品のアイマスク

最後に機内での珍しいお話です。私がアメリカの東海岸から西海岸に移動する時でした。飛行機に盲導犬を連れた方が搭乗されて、私の隣に座ったことがありました。盲導犬を連れて行かないとその人は不便ですので当然、飛行機への搭乗は問題ありません。しかし、犬は動物なので5-6時間かかるし、空の上で鳴き出したりしないのかなと少し心配でした。が、盲導犬はその方

の足の付近にきちんと丸まって、5-6時間じっとしていたのには感心しました。キャビンアテンダントの方々が多々来て、問題ないかを聞いているところが非常に普通のやり取りで、アメリカの懐の深さに感心しました。私はと言いますと、その犬のしっぽでも踏んでしまっは大変と行動には気を付け、いつもの私でいました。盲導犬を連れた方も搭乗は慣れていたので、何かあれば手助けしなければと注意していましたが、何もなく、話もできずに飛行機を降りていきました。

飛行機の乗り換えをスムーズに



空港内の電子掲示板出発時間、出発ゲートは突然変更になることがあるので、注意してごまめにチェックしましょう

飛行機で海外に行くときは、大体、海外の大きな空港を経由地として到着し、その後、その国の国内線で最終目的地に行くルートを取ります。逆に日本に帰国するときには、滞在中の小さな空港から国際線で大きな空港に着き、国際線に搭乗して日本に向かいます。私が飛行機の乗り換えで、かなりやばい体験をしたのは、当時住んでいたニューヨーク州イサカからシカゴ経由で日本に帰るときでした。12月の中旬の朝の移動だったので、イサカの空港からのフライトが滑走路の凍結でかなり時間が掛かり遅れました。イサカから飛び立った後で、同乗している人たちがキャビンアテンダントにフライトの遅れを話しているのを聞いて、私もやばいなという考えが盛り上がってきました。私もキャビンアテンダントにとりあえず、東京に行くフライトが何時にあるんだけど大丈夫でしょうかということを相談しました。乗換後も同じ航空会社のフライトだったので、ちょっとでも待ってもらえるようにしてくれるかなと淡い期待を持って話をしました。キャビンアテンダントの方は大丈夫ですと言ってくれましたが、心が休まらないフライトでした。当時はまだスマートフォンなどが無く、シカゴの情報をネットから検索ができなかったので、座席の前にある雑誌の中のシカゴ空港の配置を見て、シカゴ空港に着いたら、すぐにフライト情報を確認し、的確に出発ゲートに移動しようと考えました。実際に到着して、フライト情報を見ると、国際線のターミナルへの移動が必要で、それにはモノレールに乗って、数個先のターミナルへ行かなければなりません。どのように行くかは自分でもある程度は機内の雑誌のページの情報で確認しているのですが、間違えると致命的な状態に陥る（飛行機が飛び立ってしまう）ので、近くにいた空港係員にもう一度確認して、自分のプランと同じなので、後はできるだけ早く出発ゲートまでなんとか移動することを考えました。国際線のターミナルに入ってから走って走って目的のゲートまでたどり着きました。その便は、ユナイテッド航空と皆様おなじみのANAの共同運航便で、私が走って機内に入った時に日

本人のキャビンアテンダントからお待ちしておりましたと言われたのが非常に感動的でした。片言の英語でどうにかこうにか危機を自分の力で脱出できた先に日本人が待っていてくれたことがうれしかった、というお話でした。



搭乗する予定の飛行機を見て、ちょっと緊張感が高まってきます

次に乗換便に関しての最近の話題を紹介します。最近、私はアメリカなどの長距離の海外旅行に行くとき、航空券の費用を安くするために、一度、中国の北京や上海、韓国のソウルなどに一度行ってから、そこからアメリカに向かったりします。一つフライトが増えるので費用が高くなるようなイメージですが、実際には時間は掛かりますが、目的地に行くための費用は安くなる場合があります。この場合、乗継便が都合良くある程度待てば出発するなどということも少なく、経由地でかなり滞在しなければなりません。このようなときにどのように過ごすかが問題になりますが、若い時は、飛行場の中でくつろいでいられるような場所に行って寝ていたりすることもありましたが、最近は年を取ったので、ラウンジで過ごすようにしています。ラウンジでは、くつろぐことができ、飲み物やちょっとした食べ物も提供されています。ラウンジもいろいろあって、航空会社のラウンジやクレジットカードのゴールドカードなんかを持っていると入れたりします。グレードによって飲み物だけであったり、シャワーが浴びられたり、軽食が取れたりするものもあります。大体、航空会社のメンバーズカードやクレジットカードなどを見せることによって入れるので、私は飛行機への搭乗前に時間があるときには、ラウンジを探して、入り口でメンバーズカードやクレジットカードをいくつか見せて、Can I enter with these cards?と聞きます。持っているカードでは入れない場合もありますが、ここには入れないが、向こうのラウンジでしたらこのカードで入れると教えてくれる場合もあります。経由地でかなりの時間を要する場合には、そのラウンジの情報をもとに、ラウンジに入れるカードを準備することもあります。中国でのラウンジでの面白話の一つ。中国を経由してアメリカに行くとき、中国の北京で9時間の滞在をしなければなりません。それも夜中の12時から朝の9時まででしたので、これはラウンジを使わないと、その後の13時間のフライトで大変なことになると思い、シャワーや軽食が取れる、かなりハイグレードのラウンジに入りました。夜中のうちは大勢の人がラウンジを利用していましたが、午前三時を過ぎると人がまばらになり、いる人も寝ているので静かになりました。私は人がいなくなったのを利用して、シャワーを浴びようとシャワー室に行きました。そこにいた管理人の中国人のおじさんとの楽しいひと時が非常に面白かったのです。中国人のおじさんは英語はできませんし、私は中国語ができないので、この二人には全く共通言語がありませんでした。お互い身振り手振りで、シャワーを使いたいんですけど?いいよ、ちょっと待って、バス

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさん「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

 フォロー

は、ラウンジを探して、入り口でメンバーズカードやクレジットカードをいくつか見せて、Can I enter with these cards?と聞きます。持っているカードでは入れない場合もありますが、ここには入れないが、向こうのラウンジでしたらこのカードで入れると教えてくれる場合もあります。経由地でかなりの時間を要する場合には、そのラウンジの情報をもとに、ラウンジに入れるカードを準備することもあります。中国でのラウンジでの面白話の一つ。中国を経由してアメリカに行くとき、中国の北京で9時間の滞在をしなければなりません。それも夜中の12時から朝の9時まででしたので、これはラウンジを使わないと、その後の13時間のフライトで大変なことになると思い、シャワーや軽食が取れる、かなりハイグレードのラウンジに入りました。夜中のうちは大勢の人がラウンジを利用していましたが、午前三時を過ぎると人がまばらになり、いる人も寝ているので静かになりました。私は人がいなくなったのを利用して、シャワーを浴びようとシャワー室に行きました。そこにいた管理人の中国人のおじさんとの楽しいひと時が非常に面白かったのです。中国人のおじさんは英語はできませんし、私は中国語ができないので、この二人には全く共通言語がありませんでした。お互い身振り手振りで、シャワーを使いたいんですけど?いいよ、ちょっと待って、バスタオルいりますか?シャンプーいりますか?と聞かれ、シャワーを使い終わった後は、くしや歯ブラシは使いますか?などを、まさに身振り手振りでコミュニケーションを取りました。あまりに親切にしてくれたので、持っていたお菓子を渡して行ったら、逆に中国の食べ物をいただいたり、夜中の国際交流をしました。働いている人にも敬意をもって接することで新しい交流ができます。世界は広く、例えば、トイレを出るときにタオルを渡してくれるだけの仕事をしている人もいます。そのような方にもきちんとした態度を取ることで、お互いが気持ち良く過ごせるようになります。皆さんも世界では礼儀正しく、他人を尊重した態度で接してください。

出国あるある

次に私が主に体験した出国時の失敗あるあるを紹介します。まずは航空券の手配での失敗です。航空券を買うときには、飛行機に乗る人の姓名と生年月日の登録が必要です。都合がつかなくなって行かなくなったから、突然、飛行機に乗る人を変えることはできません。この姓名と生年月日が重要で、私の知り合いがやらかしてしまった失敗は、姓名を逆に登録してしまったということです。当日まで気が付かず、搭乗券を受け取るチェックインカウンターで間違っていることを知らされ、日本から出国はできるが、目的地の入国審査で入国を拒否されることもあるということを読み渡され、どうなるかわからないので旅行を取りやめた人がいます。皆さんも First name (名)と Family name (姓)の記入には十分に注意してください。



次に、私がやった初歩的な間違いです。初めて友人と海外旅行に出かけた時の空港での失敗です。羽田空港、成田空港などの大きな国際空港は、複数のターミナルがあります。私は初めて海外に行くときにこの概念を知らず、電車で行ったときに最初の成田空港〇〇ターミナルで降りました。そこでいくら探しても乗る予定の航空会社のチェックインカウンターがありません。係の人に聞いてみると、航空会社はターミナルごとに分かれており、私が搭乗する飛行機の航空会社は他のターミナルにあることが分かりました。また、電車に乗るのかと嘆いていると係の人がターミナル間を移動する無料のバスがあるのでそれで移動できますと教えてくれました。これ以降、ターミナル間のバスがあることが頭に残り、海外の空港でこれに搭乗することを覚えることができました。失敗も、ものを覚えるには有効な手段ですね。ターミナルと言えば、韓国で面白い失敗をしました。これも若い時の旅行の話です。空港には Domestic terminal (国内線ターミナル)とInternational terminal(国際線ターミナル)があるということ覚えておいてください。現在の羽田空港は、国内線ターミナルと国際線ターミナルがあるので、これが良い例です。韓国の済州島に観光で行くときに、まず釜山に行ってから国内線に乗り換えるルートを取りました。釜山の空港に着いてから乗換便の搭乗場所を探しましたが、全く見つけれられません。係員に聞いたのですが、こちらは韓国語はできませんし、片言の英語で話されても良くわかりませんでした。ただし、Domesticという言葉を使っているのだけが認識できましたが、友人とDomesticって何なんだろうねと話していました。あっちに行けというような身振り手振りに従っていたら、空港を出てしまいました。路頭に迷っていると、10分ぐらい歩いた先に Domestic と書いてある大きな建物を見つけて、あれじゃないと思い行ってみたところ、搭乗予定の飛行機の情報を見つけることができました。この期に及んでも Domestic の意味は理解できておらず、後日、国内線ターミナルであることが分かりました。最近では、国際線、国内線を区別せずにすべての情報が表示されるようになり、国内線と国際線のターミナルも電車やバスで簡単に行き来できるようになっており、一つの空港の中でターミナル間を移動する概念は出来上がっていますが、30年以上も前で、私も英語などもほとんどできないときでしたので、大変な思いをしました。

最後に私が航空券を受け取る時のチェックインの時に必ずやっていることを紹介します。私は、結構頻繁にトイレに行く派なので、飛行機の座席を取るときには通路側を取るようになっています。ずっと眠っていたいという人は窓側を取ることをオススメしますが、私は必ずチェックインの時係員に、I would like to get an aisle seat と頼みます。窓際はWindow seatです。また、

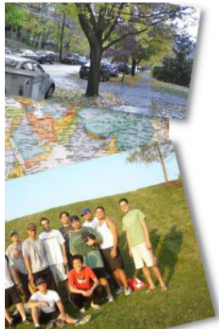
would like to get an aisle seat と頼みます。窓際はWindow seatです。また、なるべく飛行機の後ろ側の席を取ります。飛行機が着陸したら早めに飛行機から降りたいということで前方の席を取りたがる人がいますが、そのような傾向が強いため、座席が満席でないときには、後方に空席が出る傾向にあります。この空席を使えると、飛行機の中でのストレスな時間を結構減らすことができます。私はそれをいつも狙っています。ただし、席を移るのは禁止とされているので、飛行機が飛び立って、シートベルトを外すサインが出た後、キャビンアテンダントの方に了解を得てから移動することが必要です。勝手に移動してトラブルになる事例が結構あります。



日本からの出国の話をしました。最後にアメリカからの出国の話をご紹介します。本当に簡単です。日本人が日本から出国するときに検査官から出国スタンプをもらうのですが、アメリカから出るときにも同様です。私はよく思うのですが、入国はあれほど検査しているのに、出るときはまさに“去るもの追わず”ですね！という感じです。まったくストレスは感じません。日本に帰ることが非常にうれしくなります。日本に帰国する飛行機の搭乗口に来ると日本人も多くなってくるので、日本が近づいてきたなという感じで、毎日緊張していた気持ちが徐々にリラックスしてきます。日本の飛行場に着くと、まさに自分の家に着いた感じで、適度な水温のお風呂にリラックスして入っているような感じになります。短い海外旅行でも感じますが、これが1年間海外にいた後に帰ってきたときには本当にこんな感じです。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさん「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー



第二章

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をも紹介します。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えず、このようなこともあるのだなと気楽に読んでもらえればと思います。

第二章 英語でのトラブル

♡ 7

KU 神奈川大学ノート
2023年2月16日 15:35



◀第一章 入国・出国・ビザ・パスポート 第三章 住宅・保険・食事▶

何度言っても伝わらなかった英語の発音。

私が英語を使って伝わらなかった英語は多分、無数にあると思います。その中で自分がこれは何度やってもダメだなと思う単語をエピソードと共に紹介します。

まず一つ目は、アイスクリームの“バニラ”です。私は超甘党なので、アメリカで気に入っているところは、アイスクリームがおいしいというところで（ケーキは砂糖の塊にしか思えないので、超甘党の私でもNG）。そのため、おいしそうなおアイスがあるとよく買っていました。アメリカの食事は、レストランでもどこでも決まったメニューはなく、自分で選ぶことができる店が多いです。例えば、アイスでも日本でもおなじみのサーティワンアイスクリームのように、コーンを店員が持って、客がアイスを選ぶのが通常の光景です。この状況において、私はガラス越しに指をさして、バニラ、実際にはアクセントをつけて、Ba・Ni～・Raと発音したのですが、全く通じず、左から何番目かというと、オー、Ba・Ni～・Raと言って、店員が“お前の欲しいものはわかったよ”というような態度をします。私は心の中で“だからBa・Ni～・Raって言っているじゃねーかよ！”と思い、地団駄を踏みたい気持ちになりました。ちなみにアメリカに住んでいるときには、このような恥ずかしい目に合わないようにストロベリーを注文することが多かったです。なぜか、ストロベリーは通じるんですね。時々心に余裕があるときには、指さすことをせずバニラを注文してみましたが、いくらやってもダメでした。ダメなときには、途中からストロベリーに切り替えるか、指さし方式に切り替えました。



二つ目の例は、皆さんも思い浮かべられるような例です。最近、日本で多くみられるようになったSUBWAYでのお話です。SUBWAYを使ったことがある人なら、これがまさにアメリカの選択文化だと実感するでしょう。パンの種類を選ぶ、挟む肉類を選ぶ、挟む野菜を選ぶ、チーズを選ぶ、マヨネーズを選ぶなど、慣れない人には苦行のような工程です。私の選択文化は、牛丼並みつゆだくで、やさいましニクすくなめで、が唯一です。皆さんもやったことがあると思いますので、どの工程のどの発音が苦手であったか想像してみてください。マヨネーズをメイヨネーズのように発音する、レタスをラテスのように発音する、きゅうりをクウカンバー的に発音するなど、海外経験あるあるが想像されますが、これらではありません。というか、日本のSUBWAYのホームページを調べたところ、私が経験した選択肢は日本では通常は入っていないようですね。アメリカでは、パンの種類を選んだ後、パンの大きさを選択します。日本のSUBWAYはアメリカでのハーフ(Half)サイズに相当するものを売っているようです。アメリカでは、一本のパンとそれを半分、あるいは3分の1ぐらいのサイズの2種類で販売しています。この一本のパンのサイズをFootlongと言います。読んで字のごとし、足のサイズということぐらい大きなものです。私は超甘党で大食漢ですので、当然、このFootlongサイズが欲しいわけです。しかし、これをFootlongと言っても全く分かってもらえません。ある日、SUBWAYのサンドイッチを買おうと店に入りました。昼食時でかなり混んでおり、注文には列ができていました。待っている間、どのように注文するかを頭の中で練習し、Footlongは通じないかもしれないが、HalfにするかFootlongかを悩み続けていました。つまり、食欲と恥ずかしさのどちらを選択するかというところなんです。自分の順番になって、思い切ってFootlongと言いました。相変わらず、発音が悪いようで通じません。2度、3度と言いましたが、店員が分からず注文はちょっと停滞。その時、私の後ろにいた高校生ぐらいの女性が、「この人、Footlongと言っているんじゃないの?」と言ってきました。これは、天の助けというか、屈辱というか本当に微妙な体験でした。今回も完敗という感じで、お店の中の私のところだけ、照明が暗くなった感じがした。どうも私の“F”の発音はまったくダメなようで、時々“F”で始まる言葉で問題が生じます。私の名前はFutoshiですので、私自身の名前すら正確に相手に認識されていないこともありました。英語に関する自分の弱点を早めに知っておくことも、転ばぬ先の杖として必要なのかなと思います。2019年にトルコに行ったとき、トルコの空港でSUBWAYがあったので、トルコで私の“F”が通じるかを試したところ、かろうじてFootlongをゲットすることができました。私の発音が上達したのか、たまたま勘の良い店員だったのかはわかりませんが、私の“F”に関するトライと失敗はまだまだ続くでしょう。



やらかしてしまった私の英語

何気ない英語での会話で、日本人的な英語の感覚でやらかしてしまった例を二つご紹介します。私が住んでいたアパートの前にバスが通り、みんなそこから出かけていきます。ある冬の朝、同じアパートの女性と一緒に、昨日はアパートの集中暖房が暑くなかったかというような会話をしてきました。そこで私が言いたかったのは、「昨晚あなたは暑かったのか？私とはそんなに感じなかった。」ということをやつつもりで、“Were you hot?”と思いつくまま言っていました。何か雰囲気が悪くなりましたが、ちょうどバスが来たので乗り、その人とはもう会話はなくなりました。何で私の会話で話の雲行きが悪くなったのかを考えた時に、まずいことをしてしまったということに気が付いてしまいました。“Did you feel hot?”と言うべきでしたが、日本人的な感覚の英語で“You are hot”みたいなことを言ってしまいました。日本語で言うと「君、セクシーだね。」みたいな意味になります。これを女性に言った私は、相手からするとどうかしているということになります。



その後、この女性とは幸運なことに一度も会っていないので、その後の問題は生じませんでした。同様の間違いは、レストランなどでの注文の時に、「私はチキンで」というところを、本当に“I am chicken”と言ってしまうと、別の意味に取られるというのは、日本人がやってしまうあるあるです。“I will order chicken”とか“I will have chicken”などが良いと思います。多分、いろいろ英語でやらかしているのですが、自分では認識していないようなところで、どうにか生活しているのでしょうか。あまりに気にする必要はありませんが、間違ったことをやった時にアドバイスしてくれるような友人は必要かなと思います。アドバイスを受けて徐々に理解していけば良いと思います。

◀第一章 入国・出国・ビザ・パスポート 第三章 住宅・保険・食事▶

松本 太

工学部・電気自動車専用リチウムイオン電池、燃料電池

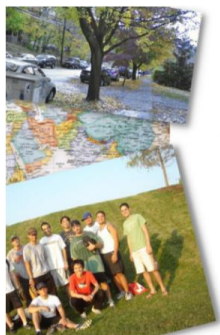
松本 太

神大の先生では、神奈川大学の教員情報やゼミ・研究室をご紹介します！気になる学部・学科、専門分野、キーワードで神大の...
www.kanagawa-u.ac.jp

神大の先生
-ゼミ・研究室-

もっと、神奈川大学のことを知ってほしい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー



第三章

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をご紹介いたします。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずに、このようなこともあるのだから気楽に読んでもらえればと思います。

第三章 住宅・保険・食事

♡ 7

KU 神奈川大学ノート
2023年2月16日 15:35



◀第二章 英語でのトラブル

第四章 交通・安全▶

アメリカの住宅事情

留学など一時的な滞在をするときに滞在場所としてアパートを借りなければならないことが出てきます。アメリカでは、アパートの賃貸は基本的に1年契約です。この契約に私は常に悩まされてきました。1年ごとに借りなければいけないということは、年単位での引っ越ししかできないということになります。そのため、短期留学をする人が住むアパートを見つけるのは基本的に無理です。そこで登場するのが Sublet(サブレット：又貸し)です。よくあるパターンを紹介します。アメリカの大学は9月から学年が開始されます。9月から半年ぐらい留学生が大学で勉強を行って、その後、母国に帰っていきます。例えば留学期間が9月から2月までの半年間の場合でも、一年契約でアパートを借りないといけません。そして、自分が母国へ帰る前に、残りの契約期間中のアパートを又貸しする人を探さないといけません。



著者が一番好きなCornell大学の風景

アメリカでは、craigslistという口コミサイトがあり、個々にアパートのサブレットを探していますという広告があります。現在は別のサイトの方が活発かもしれませんが、私がアメリカにいた2005-2010年にはアパート探しや、

サブレット探し、中古の家具や中古の自動車を探したり、買ったりする目的で結構利用していました。サブレットの形態はいろいろあります。完全に部屋を空けて貸してくれる人や、半年間家を留守にするので、すべてのものを置いたままで部屋を貸してくれる人など色々います。学生の場合、一軒家を数人で借りてシェアしている場合があるので、その中の1名としてサブレットを募集している所もありますので、数名と集団生活することになります。日本の学生のようにアパートでユニットバス付の1部屋で自分だけで生活するというのはあまり見かけません。イメージとしては、居間、キッチン、バス、トイレは共用で、自分だけのスペースは自分の部屋だけになります。集団生活が好きな人は良いのですが、日本人でなかなかそのような人は少ないと思いますので、できれば留学生なら、留学生同士で生活する、訪問研究者なら、少なくとも大学院生たちと生活するなどの生活習慣が同じような人と生活する方が良いと思います。例えば、学部生たち(undergrads)と生活すると、アメリカ映画でおなじみの毎晩パーティーのような状態になり、気が休まる時間が取れない状態になるので気を付けてください。私の経験としては、6人で一緒に住んでいて、バスとトイレが一緒についている形のものが1つしかなかったので、朝みんなですることが非常に不便でありました。私は、朝起きる時間を他の人とはずらして生活するようにして、不便さをどうにか回避しました。

次にアパートを自身で借りた場合やサブレットで部屋を借りた場合の具体的な生活について話していきましょう。私は最初の1年を共同生活の家に住みました。その後、3つのアパートに自分で契約して住みました。このすべてにおいて、ベッドとマットレスがついていました。冷蔵庫もついていました。洗濯機は、共用のコインランドリーであったり、部屋に個別に付いていたりしました。皆さんが始めにアメリカの家に住むときには、大きなシーツとタオルケットを持って行けば、数日はマットレスの上にシーツを敷いて、タオルケットをかぶって寝れば良いと思います。そのうち、布団(英語でもfutonで通じます)をホームセンターで購入すれば良いと思います。ソファが付いているところがあったり、オーナーに頼むとソファを部屋においてくれる場合もあります。部屋の中の明かりは、自分で準備するしかありません。基本的なものはありません。また、基本的に家の中は暗い照明になっています。日本の住宅のように家の中が明るいというのはあまりなく、明るくしたいのであれば自分で照明を買って、部屋の中に配置しなければなりません。

アメリカでの生活で苦労したことBest1

私は、アメリカで5年間生活をしましたが、生活の中で一番違うと感じたのが、生活の場所と食べ物を買う場所との距離です。日本では私は都会での生活が長いので、家を出ればすぐそこにコンビニがある、これもある、あれもあるというように生活圏内に食事を取ったり、食べ物を買ったりする場所が存在しています。しかし、アメリカでは生活する場所にはお店はありません。住宅地は完全に住宅地です。自動販売機もありません。ところどころにコンビニがあったり、食べ物屋さんがあったりすることは全くありません。なぜそうなるのかというと、アメリカは完全に車社会です。住宅街はきれいな景観を作り出し、食べ物や日用雑貨類は車でショッピングモールに買いに行くというスタイルです。このスタイルの中で車を持たない人が生活するとなりにきついです。ショッピングモールの近くに住まないと食べ物を得ることに相当の時間を取られます。アメリカには食の砂漠、あるいはフードデザート(food desert)という言葉がありますが、本当に日常生活が大変です。

私は最初の3年間は大学の町に住んでいたのですが、学生すべてが車を持つことはできないことから、バス路線のルートが張り巡らされた地域になっていました。そのバスを使って、週末にはバスに乗って買い物に行き、大きな荷物をバスに載せて帰ってくるというスタイルを取っていました。当然、バスに多くの荷物を持って乗ってくる人が多いので、バスに乗っているみんなが許容してくれました。ときどきすごい荷物だなという人もいましたが、お互いさまであるので、バスから荷物を降ろすのをみんなで手伝ったりしました。また、車を持っている友人が買い物に連れて行ってくれるというときには、チャンス到来ということで、日ごろ買えないようなものまで買って、自分の部屋に保存しておくことも行っていました。



友人の車での買い物は大量買い

2年間サンディエゴに住んだ時には、完全な都会でしたが東京のような都会でなく、車で都会に通勤する形の生活スタイルでした。日本人は、それだと高速道路がすごい混むのではないかと考え心配してしまいますが、確かに混みますが日本のようにはなりません。ほとんどの高速道路は無料です。一時的に混雑するだけです。アメリカの都会は、車社会です。車が駐車できない場所は、都会の中の本当に中心部分で、会社はその周りに点在しています。当然駐車場もありますので、車通勤ができる形ができています。私もこの状態では車に乗らないと仕事ができないと考え、車の生活を始めました。車の生活を始めた途端、お金は掛かりますが、快適な生活を送ることができました。毎週末にスーパーに行き、大量の食べ物を買い込み、車に載せてアパートの大きな冷蔵庫にどさっと入れるという、まさにアメリカンな生活を過ごしました。

今になって考えても、アメリカの食の砂漠は生活する上で本当にきつかったと感じます。超都会のニューヨークシティー(皆さんが考えるニューヨークのことです。アメリカ人は、ニューヨーク州のことをニューヨークあるいはニューヨーク州といい、マンハッタン島周辺をニューヨークシティーと言います。日本でいうと東京都と東京23区の違いです。)でしたら、日本の東京23区内の生活と同等になりますが、アメリカの都市はビジネス街とショッピング街があり、それ以外のところでは、食事をしたり、食べ物を買ったることができなくなってしまいます。アメリカでは、モールというショッピングセンターがあり、そこでなんでも買うことになります。日本のように個人事業主が自分の土地で店を開いてものを売っているというのがほとんど見られません。気を付けてもらいたいのが都会の近くにあるダウンタウンです。日本の皆さんはダウンタウンにある種、良いイメージを持つと思いますが、この地域は低所得者の方々が住んでいる地域で、危険性が高いです。そのよ

うなところには、個人経営の店が点在しています。明らかに、車がないので郊外の大きなモールに買い物に行けないので、個人経営の店が繁盛しているといった感じです。昔の日本に近い形の生活スタイルですね。昔の日本の生活に近いスタイル、飲食店が近い、アパートが安いからと言って、このような地域に住むにもリスクが伴うことを十分に考えた方が良いと思います。

アメリカの保険事情

アメリカには日本のような国民皆保険制度がありません。そのため自分で民間の保険に入らないと保険制度の恩恵を受けることはできません。民間の保険は、想像するようになりかなり高額なものになります。私が初めて大学の研究員として働くためにアメリカに行ったときには保険制度がよくわからなかったため、6か月の海外在住の保険に日本で加入して渡米しました。運良く、職場の保険に入れたのでダブルで保険に入っている期間がありましたが、日本の保険が切れた後は、大学の保険で何とか過ごしました。といっても、幸運にも一度も保険を使うことはありませんでしたが、アメリカの保険が高いことはある程度知っていたので、渡米前に歯の検査は十分に行って、心配な箇所は十分に治療を行いました。私がアメリカ滞在中に会った日本人の中には、歯の治療のためにわざわざ日本に帰国したという人がいました。往復の航空券は高いが、それ以上にアメリカでの歯の治療は高額であるということです。日本では国民健康保険に加入すればすぐに保険の対象になることができるので、帰国することができるのであれば、帰国して治療の方が金銭的にも治療の完璧度合い的にもお勧めするとアドバイスされました。

私が大学で働いていた時に唯一、保険に関係したのは所属する研究室の学生がテニスをしていて、頭をぶつけて救急車で病院に救急搬送された時です。ケガや後遺症などはなかったのですが、1週間入院をしました。退院した後で、入院金額などについて聞いてみたところ、総額150万円ぐらい実際には掛かっており、それらはすべて大学の保険で賄われたということでした。この中には、救急車の利用料金、親が病院に駆けつける、滞在する料金なども含まれるということで、学生の保険なのでこの辺は完璧であることが分かりました。この学生は、大学の正規の学生なので、このくらい手厚くしてくれる保険に加入していましたが、語学留学などで一時的に滞在する学生の保険は、どのようになっているのか、例えば、派遣元(自分の大学)と派遣先(留学している大学)のそれぞれの保険について確認しておく必要があると思います。個人で夏休みに語学留学をする時などは、派遣元はありませんので、自分で語学留学先の保険について検討し、不十分であれば、自分で保険契約をする必要があります。

今度はアメリカの一般企業に勤めた時の話です。この場合には、会社が契約する保険に入ることができました。すごい量の契約書が渡され、いろいろなところにサインしましたが、正直ほとんど読んでいない状況でした。実は日本人がよくやる、わかったふりをしてサインしてしまう行動ですが、今でしたらすべてGoogle翻訳して、おおよその内容把握をしておいた方が良かったなと思っています。私は一度だけ健康診断書が必要だったので、ショッピングモールにあるクリニックに行ったことがあります。この時は結局、保険の対象にはならなかったと記憶していますが、契約した保険会社が認めるクリニックなどへ行かなければならないということを知り、契約した保険会社の資料の中から住んでいるところに近いクリニックに一つ一つ電話して健康診断書を作ってくれるクリニックを探しました。私の場合には無かったのですが（保険対象外の健康診断なので）、病気で診察を受ける場合には、保険会社の契約者番号のようなものを聞かれて、その情報が正しければ予約が受け入れられるようです。

保険に関しては、私はほとんど海外で病気になった経験がないので、あまりためになる話はないのですが、もし仮に病院に行くことがあれば、その病院

から診断証明書と支払いをした時の証明書ももらっておくことによって、日本に帰国した時に海外での医療費を日本の国民皆保険制度の枠内で一部の費用を払い戻しすることができます。私はこの制度を知っていたので海外に行くときには、日本の制度で費用を払い戻すための書類のコピーを持っていき、医療費が発生した場合には、その書類に基づいて証明書を作ってもらおうようにしています。私の場合は、海外で子供が歯が痛くなって歯科クリニックに行ったときにこの制度を使いました。海外では医療制度が日本と大きく違っているので、渡航前の準備が必要です。

パーティーに参加

海外ではパーティーがよく開かれるというのは日本人にも知られています。招待されると気を使ってしまっ大変だなと思いますが、招待されないことも寂しい感じがして適度に参加することができればというように考えていました。ナイトライフのパーティーは、それなりに正装して参加するので非常に気を使います。私が参加したナイトライフのパーティーは、当時所属していた教授の家で開催されるパーティーと、会社の社長が主催するパーティーが最も形式ばったパーティーでした。当時私は単身で海外生活をしていたので、パーティーには一人で参加することになり、他の人は夫人を連れてたり、ボーイフレンド・ガールフレンドを連れて参加しているので、ちょっとさびしい感じも受けましたし、その辺の話題が無くて困ってしまいました。日本にいてもこのようなパーティーが苦手で、さらに英語が得意でない、単身でパーティー参加の三重苦でかなり苦戦しました。これをどうすべきかは未だに答えが見つかりません。同行者と一緒に参加すれば、同行者を知り合いに紹介したり、どこに出かけたとかのたわいもない会話をして過ごすことが無難に乗り切ることができるのではないのでしょうか。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

 フォロー



研究室での誕生パーティーと卒業試験合格の打ち上げバーベキュー

また、昼間のパーティーもあります。大学の研究室に所属していた時は、誕生日、進級試験などに合格すると昼間の時間にパーティーを開きました。ちょっと大きな成果が出ると、公園に行ってバーベキューパーティーをします。バーベキューの場合には、一通り食べ終わるとサッカーやバトミントンなどちょっとしたスポーツイベントが始まるので、私の得意分野でやっと来たかと参加して、時間を潰します。スポーツは会話の必要がなく、プレーでコミュニケーションを取ることのできる、私なりのコミュニケーションがようやく通用できました。



卒業試験合格の打ち上げバーベキュー

パーティーの時の会話で驚いたのが、チーズとワインのおいしさ自慢話です。大学院生と大学院を卒業した20代後半から30代前半の若者が、このチーズはうまい、このワインとの組み合わせが良いということを熱心に話していました。さすがに欧米の人々だなと感心しました。日本人の若者で、みそと日本酒の話のできるのはいかにどのかなと考え、食に対する奥深さを考えさせられました。

◀第二章 英語でのトラブル

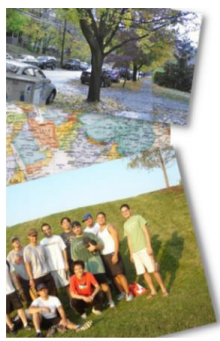
第四章 交通・安全▶

松本 太

工学部・電気自動車専用リチウムイオン電池、燃料電池

もっと、神奈川県立大学のことを知ってもらいたい。たかさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー



第四章

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をも紹介します。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えず、このようなこともあるのかなと気楽に読んでもらえればと思います。

第四章 交通・安全

♡ 7

KJ 神奈川県立大学ノート
2023年2月16日 15:36



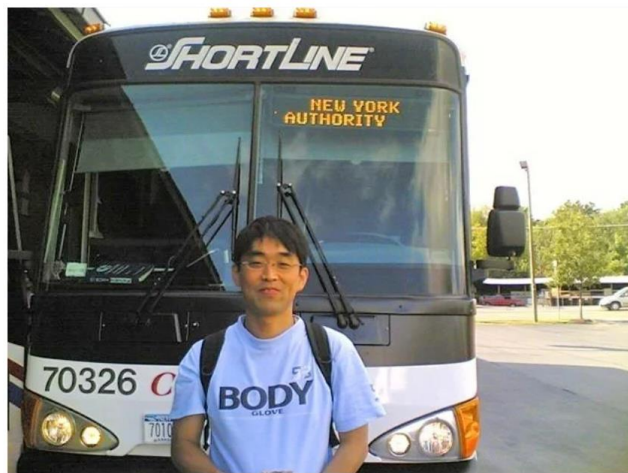
◀第三章 住宅・保険・食事 第五章 お金・仕事▶

旅先で出会った悪い人・良い人？

2019年秋、コーネル大学研究室時代の仲間が、トルコで教授になって国際会議を開くということで、初めてトルコのイスタンブールを訪問しました。ドーハを経由してイスタンブール・サビハ空港に到着しました。空港はイスタンブール近郊でアジア側に位置し、イスタンブール市内までバスでの移動でした。アジアとヨーロッパの境界であるボスポラス海峡に架かる橋を渡った時には、この旅の一つの目的を達成でき感無量でした。夕方ホテル近くのトルコ風ファーストフード店でトルコ料理を満喫し、この旅が順調に進んでいることに満足していました。次の日の学会は13時から開始されるので、朝からこの旅のもう一つの目的であるバザールを見に行くことにしました。朝8時ごろホテルを出ましたが、ホテルを出たところの交差点で事件が起こりました。交差点を歩き交う中、一人の男性が靴磨きのブラシを落としました。私の同行者は、「落ちましたよ。」と言って拾いあげ、渡しました。その後、その人は私の同行者に「靴を磨いてあげましょう。」と言い、その同行者も調子に乗って靴を磨いてもらいました。その男性は靴磨きの最中、機嫌よく「日本人か？東京は知っている。」などと喋ってきました。しかし、終わった途端その男が靴磨きの金額をかなり高額に請求してきました。そこで「しまった！」と、だまされたことに気づきました。トルコのお金は無いと言って、1ドル紙幣を渡しましたが、換金できないからと言ってトルコのお金をくれと受け入れませんでした。どうにか1ドルを与えて事なきを得ました。その後のバザールに行く最中の満員電車の中、すべての人が私たちを騙すためにバスに乗っているのではないかと疑心暗鬼になってしまい、まともな観光ができませんでした。その後も、街を歩いている時など、靴磨きの人間が私たちを見つけると、近寄ってきてすれ違いざまブラシを落とすので、毎回私たちは馬鹿にされている気がして不愉快な気持ちを持ちながら3日間を過ごしました。

次に2014年に学生と学会に参加しアメリカ・オランダに行った時の話です。オランダと言えばディズニーワールドがある街です。私たちは男二人でディズニーランドに行く気にはなれず、オランダのダウンタウンに観光に行くことにしました。バスを乗り継ぎようやく到着しました。ちょっとした公園があったので散策しながら道端を歩いていると、IHOPE(アメリカ全土

にある有名なホットケーキ屋さん)の若い男の店員が私たちとすれ違いました。すれ違って数メートル離れたところでその若者が、「君たち向こうに行くのかい？向こうは非常に危険なところだから君たちのような観光している人は行かない方がよい。私はそこに住んでいるけど、親切心から言っている。私の言うことを信じて戻ったほうがいい。」と言われました。こう言われるともう先に行くことはできず、その若者と話をしながら公園の中心地に戻り、「観光ならあそこからバスに乗って行った方がよい」とアドバイスされました。私たちはそのアドバイスに従いバスに乗りました。教えてもらった場所は、安全なところでしたが、その場所に行くバスは、実は先程危ないといわれた地域を通りました。どんなところなんだろうとバスの中から見てみると確かに相当物騒な感じがしていました。さらに、私たちがあのアドバイスを聞いておいて良かったと思ったのは、バス停での出来事でした。ある男女がバスに乗り込んできました。男は松葉杖をしていたので、多分、松葉杖で歩けないからバスにただで乗せてくれ、女性も私も付き添いだから無料だということを言って、乗り込んですぐにバスの後部座席に行ってしまいました。バスのドライバーが前方の運転席から大きな声でそれは認められないと言って怒鳴っていました。その忠告を聞かないのでドライバーは運転席を立ち、後部座席まで来て、無賃乗車の人々と言い争いをしています。私は心の中で、「やばい、運転手はピストルで撃たれる」と思いました。私は流れ弾が来たら当たらないように身を固めていました。その後、無賃乗車の人々はバスを降りていきました。何事もなく済みましたが、これが私が海外で一番身の危険を感じた経験です。そのバスの中で思いましたが、バスの運転手はこのような荒れた地域を運転するのに命懸けなんだろうなと感じました。世界を旅すると日本で見られるより幅広い良い人・悪い人、つまり非常に親切な人、関わってはかかなりまずい人に出会います。皆さんも気を付けてください。



バスは長距離移動が必須です

私を感じた人種差別

私は海外生活において人種差別を感じたことはありません。ただし、私は英語が得意ではないので、英語が話せないということで差別的な態度や発言をされたことはあるような気がします。自分の英語ができていないからだとして自身で反省してしまい、あまり差別だと感じていないのかもしれない。

私を感じた人種差別というか、人種差別の痕跡は、公共のバスに乗ったときに度々感じました。皆さんも昔、アメリカには人種差別があったことは知っていると思います。アフリカ系の人たちが差別されていました。当時は使うトイレやレストランも区別されていました。バスにおいては、アフリカ系の人にはバスの後部に乗るように言われていました。この悪しき習慣がまだ残っていることが、バスに乗ったときに感じられました。特に長距離バスのような場合、後部にアフリカ系の人たちが乗っていることが明確にわかります。彼らは、本当に静かに乗っているので明らかにちょっと変わった雰囲気です。私が見たアフリカ系の人たちは、非常に静かにしていました。どちらかというど気配を消したいというような雰囲気公共の場に出ているような感じでした。映画で見るとような陽気な雰囲気はほとんど見たことがありません。長い歴史の中での習慣なののでしょうか。

先入観を持たせてはいけませんが、日常の生活の中では、人種、生活習慣、好みのもので一緒の人たちが集まり、その仲間で生活しています。日本の単一民族でも同様ですね。人々がいろいろと複雑な人間関係で生活しているように見えて、何かしらのグループに属して生活しています。それは自分を守るためには必要です。皆さんもどこかのグループに所属すると思いますが、その時は他のグループを悪く思わずに、お互いに距離を持って生活していきましょう。海外で感じるのは、この距離の取り方が日本社会で生きていくときの私たちが感じる他人との距離感とは明らかに違ってきます。この距離の取り方は、歴史や現在の社会的状況などの複雑さの中でできているものなので、対応には注意しましょう。海外の人は、人と気さくに話すということをよく耳にするかと思いますが、確かに、あるところまでは気さくに話をしますが、ではすべてを受け止めているのかということ、どこから自分自身のことと考え、壁を作ってきます。このさじ加減は世界で一定ではなく様々です。その時々で人との距離を考えて、どのように接するべきなのかを考えていかないとはいけません。

運転免許の取得

アメリカでの生活では車が必要であるということは、これまで説明してきました。車を運転するためには、海外でも当然運転免許証が必要です。日本の運転免許証を国際免許証に書き換えて、海外で運転することも可能です。私がアメリカで住んでいたニューヨーク州では1年間でしたら国際免許証で運転ができます。その後はニューヨーク州で運転免許証を取得する必要があります。私の友人で、1年間の留学でしたがこの運転免許証の取得にチャレンジしましたが、免許の実技試験で不合格になり、結局、国際免許証で通すことを決めた人がいます。日本では普通に運転をしていたので、技術というより緊張感と海外での運転に関する考え方の違い等が影響したのだと思います。

さて、私は日本にいるときから運転免許証を持っていなかったため、ニュー

ニューヨーク州の運転免許証の取得にチャレンジしました。日本と大きく違うのは、日本であれば自動車教習所に通うのですが、アメリカではそれがありません。あるのかもしれませんが、それに通わずに免許が取れます。始めに通称DMV(Department of Motor Vehicles)において、自動車運転に関するペーパー試験を受けます。現在は、DMVに行かなくてもインターネットで受けられるかもしれませんが、私がニューヨーク州にいたころはDMVの窓口で受けました。ペーパー試験の過去問がネットを探せば見つけれられるのでそれを一生懸命勉強しました。当然、英語の問題です。英語が苦手な場合、大きな町に行けば日本語での試験問題もあり、それでペーパー試験の合格を勝ち取ったという話を聞きましたが、当時私は、自動車で大きな町まで行くことができなかったで英語の試験にトライしなければなりません。幸運なことにペーパーテストは1日数回受けられ、私は幸運にも1回でペーパー試験を合格することができました。この段階で写真を撮って、視力検査を受けて問題なければ、仮免許証(Learner Permit)が交付されます。ここまでで支払った金額は50ドル(約5500円)ぐらいです。次の段階は実技試験ですが、その日には行いません。仮免許証が交付されたので、自動車の運転の練習をします。この場合、助手席に運転免許証を持っている人に乗ってもらうと路上で運転の実技練習ができます。私は自動車を全く運転したことが無かったので、友人を見つけては大きな駐車場まで車で連れて行ってもらい、そこでその車を私が運転して練習を繰り返しました。慣れてくるとほとんど車が走らない路上で、さらに慣れてくるとそれなりの交通量があるところまで技術を上げていきました。この段階で実技試験の予約を取って、実技試験の準備を始めます。実技試験は助手席にDMVの試験官が乗った形で路上で行われます。路上試験を行うルートはいくつかありますが、路上試験を受けた人に聞いてみるとおおよそのルートと課題がわかります。その試験用のルートを用いて練習することもありました。噂によると同様のことを考える人が多く、試験用のルートで練習していると、パトカーに注意されるということがあるそうです。試験当日は、運転免許証を持っている人に車を運転してもらって試験場所に行き、そこで15分ごとに試験が行われます。試験を受ける車が縦列駐車しているので、それにつながって駐車して、試験の順番を待ちます。



ここでの注意点ですが、駐車している段階で試験を受ける人が運転席に移ってしまうと、試験官からここまで来るのに試験を受ける人が運転してきたの

かということ指摘され、試験がキャンセルになるということを知ったことがあります。試験の順番が来て試験官が乗り込む段階になって、ようやく運転免許証を持っている人が車を降り、試験を受ける人が運転席に座ります。この時、試験官が付き添いとして車を運転してきた人の免許証を確認します。そこで、運転免許証を忘れたなどということになると、またこれが問題となって、試験はキャンセルになります。私の場合朝の試験だったので、付き添ってくれの人を見つけられずに、運転免許証を取得して1週間しかたっていない人に付き合ってもらったので、ちょっとトラブルというか、注意を受けましたがどうか試験を受けることができました。

試験が始まると、試験官から指示を受けながら自動車を発進させます。日本でも同様だと思いますが、発車時の安全確認は十分に、大げさにやってきちんと確認しているということをアピールするというのが、これまでに試験を受けた方からのアドバイスでした。ミラーの位置の調節やサイドミラーの確認は指差し動作で、思いっきりオーバーアクションで行います。後ろから車が来ないかを後ろを見て確認しますが、これも通常はちらっと見る程度ですが、ここではオーバーアクションで指差し確認で行ってみました。聞いた話ですが、試験官は、ダメなところをチェックしていくので、この段階で試験官が何か書き物をしているようなしぐさがあれば、減点されていると考えた方がよいということです。自動車を発進させた後、試験官がそこを左に曲がれ、右に曲がれというように指示してきます。試験官の指示に従って、路上駐車、Kターンなどをやらされます。一通り終わった後で元の位置まで戻ってきて、結果発表です。何とか一度で合格することができました。試験を一度で通過するものは難しいと言われていましたが、これまでの経験者の方のお話を参考にし、練習に練習を重ねた結果、努力が実を結んだのだと思います。日本でかなり自動車を運転してきた人あるあるですが、10年以上運転してきたのにアメリカの実技試験で落とされたというような話をよく聞きました。これは、運転に慣れていないため、後方確認をちらっと見るだけであったり、いつの間にかいつもの癖で片手でハンドルを操作していたりすることが減点の対象になっているようです。この後は車の購入、ナンバープレートの登録といった段階に進んでいきます。

自動車の取得

運転免許証を取得できたのでマイカーを持つことが次の関門です。私は、中古を持つか、新車を持つかで悩みました。そのため、中古車購入と新車購入の両方を検討しました。まずは中古車の検討の話をする。上述したようにcraigslistなどいろいろなサイトに売りたい、買いたい情報があります。それらをチェックして、売りたい相手にコンタクトして車を見せてもらうということを行います。この時のチェックポイントは、私も初めて知ったのですが、自動車を自動車整備工場などに持って行って、車体番号から事故履歴、自動車のチェックからこの先どのような修繕が必要となってくるかを50ドル程払って確認してもらうことです。日本でも行うのかも知れませんが、海外では購入した後のいろいろなトラブルを避けるために第三者の客観的な見解も必要になってくると思います。日本人の場合1年間の留学なので、安い車をあまり手間を掛けずに購入して1年後の日本に帰国するときに売る、というようなことを気軽にやっている人が多く、日本人の間で代々売り渡されているという車の話を聞きます。中古車は個人間の売り買いだけでなく、中古車を取り扱う会社もあり、そこに行って試乗もさせてもらいました。運転免許証を見せてIDを控えさせると、中古車会社の人が付き添わずに試乗できるの

もっと、神奈川大学のことを知ってほしい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

[+フォロー](#)

で、購入しようとする自動車は自動車整備工場などに持って行って意見を聞きます。中古車を検討しましたが、ちょうどアメリカの企業に就職することが決まっていたので、長く使う、故障してどうにもならないことを避けたいということを考えて、新車の購入に舵を切りました。

私は自動車運転の経験が無かったので、あまり大きな自動車を運転したくないなと思っていました。日本車でいうとホンダのフィット、トヨタのヤリス、スズキのスイフトなどの小さな車です。アメリカではこのような小さな車に乗る人は少ないので、新車としてこれらの車を手に入れるのが難しかったです。友人に頼んでそれなりの大きな街に見に行ったりしました。その中からスズキのイグニスアメリカ版のような自動車を購入しました。ナンバープレートの登録などは、苦労した思い出が無いので、多分、購入した自動車販売店が行ってくれたのではないかと思います。ニューヨーク州からカルフォルニア州に移ってきたときに、もう一度、カルフォルニア州の運転免許証を取得しなければなりません。この場合、実技試験はなく、ペーパー試験とナンバープレート取得にDMVに行きました。ペーパー試験は難なく通過しました。次にナンバープレートを貰うときに自分の登録する自動車をチェックされます。そのときいかにも怖そうな係官が出てきてフードを開けろと言われました。車に詳しい人ならわかるかもしれませんが、私は分からず固まっていたところ、“ここだよ！ここ”というようにボンネットをバンバンたたいたので、私はようやく理解することができました。どうも車体番号を確認したかったようで、確認ができたらずいどこかに行ってしまうました。いやー怖かった。少し待つと窓口で呼ばれ、無事にカルフォルニア州の運転免許証と車のナンバープレートを受け取れました。私は何も知らず、もらったナンバープレートを付けようとしたのですが自分では付けられず、どうしようかと悩んでいました。このままニューヨーク州のナンバープレートを付けてても大丈夫だろうと思い、そのまま帰路につきました。家について、ナンバープレートの取り換えに思案しましたが、よくわからないので、翌日会社の機械部門に行って相談したところ、特別な工具が無いと取り換えができないということで、自動車整備会社に行くようにアドバイスされました。お昼の休憩時間に自動車整備会社に行って、無事交換してもらいました。外したニューヨーク州のナンバープレートを捨てるか、持って帰るかを聞かれましたが、捨てておいてと言って置いてきました。今考えると、私の初めての車の、さらにニューヨーク州のナンバープレートなので記念に保存しておくべきだったかなと思っています。目前の問題が解決すると、それにホッとして深く考えなくなるんですね。

最後に帰国の時に自動車を売った話をします。購入した新車を2年後に売ることにしました。購入の時とは逆に、売る立場となってネットのいろいろなサイトに広告を出しましたが、安心して売ることができるようなコンタクトが無く、中古車買い取り業者に売ることを考えました。いろいろな会社に自動車を持ち込んで、いくらで買ってもらえるかの見積もりを取りました。最終的には、日本の会社であるガリバーがロサンゼルスを中心部にあったので、そこまで行って見積もりを貰い、満足が行く金額だったので売る契約をして、一旦、自動車アパートへ帰り、日本に帰国する直前に引き取りに来てもらいました。2年乗ったにしては、新車の時の金額と比べて大きく値段が落ちなかったもので、2年間事故が無かったことを感謝し、マイカーとお別れでした。後日、私の銀行口座にお金が振り込まれたことを確認し、アメリカでいろいろあった自動車の運転の苦労話は幕を閉じました。

アメリカで自動車を運転して気が付いた独特なルールや紳士協定をいくつか紹介します。まず一つは、赤信号でも右折OKです。日本で言うと、赤信号でも左折OKです。このルールに気が付いたのは、友人の車に乗せてもらった時です。日本の場合、赤信号では、絶対に信号を無視することができません。しかし、アメリカでは、場合によってはOKです。それが右折の場合です(日本で言うと赤の交差点での左折)。アメリカの場合右折した車線に危険が無ければ、自己責任で行けます。私はこのルールが非常に嫌でした。結構、交通量の多い交差点でもこのルールがあるために、タイミングを崩すと事故になってしまうような場合でも、同様に右折しようとする後続車からプレッシャーを受けることがあるからです。慣れないときには、後続車が私を追い越して、交差点を右折していったというような屈辱を受けたこともありました。



アメリカ赤信号での交差点のルール (図の走行車線は日本式。日本では絶対にやってはダメです!)

二つ目のルールは、交差点での目の合図で譲り合うということです。日本でも信号のない交差点は数多くありますが、アメリカでは日本ほどありません。交差点では、始めに交差点にある停止位置に入ったものが優先して、交差点を進めるというルールになっています。

日本では、交差点の入り口の路上にSTOPの標識があったり、停止線が書いてあったりしますが、アメリカの場合、図のようにSTOPと書いてある標識が掲げられています。時々、木の枝葉などが邪魔して見難く、気が付いて急にブレーキを踏むということもありました。アメリカ人は、自己主張が強いので交差点でも強引に交差点を通過するというイメージかもしれませんが、意外と、公共の場では、皆さん優先権を守っています。しかし、何か有ってはいけないので、私はそれでも自分に優先権が来てもそっと交差点に車を入れて、どこからも追突されないように十分に注意していました。

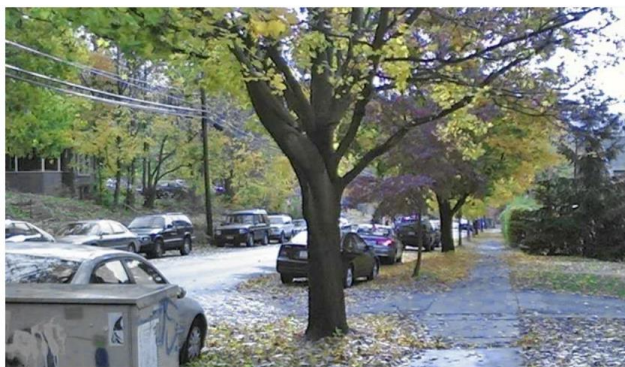
もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+フォロー



アメリカでのSTOPサインの例

三つ目は皆さんもご存知の自動車を駐車するときにバックして駐車する(日本人風)か前進して駐車する(アメリカ風)かです。アメリカでは、バックして駐車しているのをほとんど見ません。やっていたら奇妙がられるかもしれません。日本のように駐車場所に停止用の石などが無いので、アメリカ人があれをやったら、他の車に追突する、お店に突っ込んでしまうようなことを起こしてしまうと思います。一方で、縦列駐車は得意ではないかと思います。アメリカやヨーロッパの都会によく見られますが、自動車の駐車は路上駐車が多く、よくもここまで詰めて駐車ができるなというようなものも見られます。どうしても必要な場合には、精密にやっつけてのけるというのは、どこの人でも同じなんです。



街中での路上縦列駐車

次は私の体験でなく、ヨーロッパからアメリカの大学に滞在していた方の話です。日本でも、アメリカでも同じだと思いますが、自動車を運転しているときに、警察のパトカーに停止させられることがあると思います。アメリカの場合、停車させられたら、自動車のハンドルに両手を出して、警察官の指示に従うということになっています。その方は、自動車を停止させられてカッとしたのか、自動車を降りて、何で私が停車させられるのかと言ったら、警察がその方に拳銃を向けたというような話です。アメリカでは運転手が拳銃を持っている可能性があるので、ルール破りのことをすると、拳銃が向けられます。この方はすぐに両手を上げ、完敗状態の態度を取ったそうです。警察に止められても冷静にという教訓ですね。車の停車とえば、アメリカにはスクールバスという黄色のバスがあります。このバスがのろのろ走っているからと言って、追い越したり、停車しているときに変な行動をしたらかなりの確率でつかまります。スクールバスをみたら、行動を慎むことが必要です。私は一度も会ったことがありませんが、注意すべきアメリカのあるあるです。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

 フォロー



スクールバスの停車場面

最後に歩行者側からの体験談を一つ、皆さんご存知のように日本では車は左側を走行し、アメリカでは右側を走行します。道路を横断するときに、右見て、左見て、また右見て、安全なら横断ですが、アメリカでは、左見て、右見て、左見て横断になります。この見る順番は、道路を渡るときに自分に近い側の車線から見ており、これは長く生活してくるとどうしてもそうなります。日本で長く生活してきた人がアメリカで生活する、あるいはアメリカで長く生活してきた人が日本で生活するときには、この習慣を修正する必要があります。つまり、元のところの習慣で車が来るかどうかを確認しているので、自分に近い側の車線に車が来ているかどうか確認できていないからです。アメリカから帰ってきたとき、左から見る習慣が抜けず、自分の最初にわたる車線をあまり見ずにわたり始めてしまって、危うく自動車にひかれそうになりました。皆さんも気を付けてください。

◀第三章 住宅・保険・食事 第五章 お金・仕事▶

松本 太

工学部・電気自動車専用リチウムイオン電池、燃料電池

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。


 フォロー


第五章

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をもて紹介します。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずには、このようなこともあるのだからと気楽に読んでもらえればと思います。

第五章 お金・仕事

♡ 6


 神奈川大学ノート
 2023年2月16日 15:36


◀[第四章 交通・安全](#) [エピソード](#)▶

401K

401Kは通称フォーティワンケーと呼ばれます。これを知っている人はかなりのアメリカ通ですね。その人は財テクに興味があるか、アメリカで働いたことがあるかのどちらかだと思います。401Kは日本でいう年金積立制度です。国民年金のような形でなく、個人が老後のために積み立てる年金です。この年金を積み立てれば、その分は税金の免除になります。私は、San Diegoの会社で働いたとき(2008-2009年)にはじめてこの存在を知りました。コーネル大学で働いていた時は、大学が年金として一部を私のために積み立ててくれていましたが、期間が短いので大きな金額にはなりません。401Kは65歳まで積み立てて、その後、年金のような形で使うことになります。最近、日本でも同様の個人型年金制度iDeCoが始まりましたが、私は401Kのことがあるので躊躇なく、iDeCoに積み立てを始めました。iDeCoの場合には、あまり大きな金額を積み立てられないようになっているので、日本の場合には安心です(個人的見解です)。

この積み立ては良い話ばかりでなく、積み立てられた年金は様々な投資などに運用されます。その有用利益が出ていけば老後はバラ色の人生。もし、投資が失敗したらかなりの損をします。まさに、人生のハイアンドローです。私は、サンディエゴでこのシステムを経理担当者から説明されたときに、やることを直ぐに決めましたが(会社内で一定額積み立てがないと401Kの制度に会社で参加できないと説得されたためです)、どこに投資すれば良いのかについて相当悩みました。経理担当者にアドバイスを求めましたが、経理担当者は一切ノーコメントを貫きました。変にアドバイスして、後で「君のアドバイスのせいで損をした」などと言われても困るのでだんまりを決め込んだのでしょう。正しい対応です。この辺がまさにアメリカです。私は悩んだ挙句、何の選択理由もなく、いくつかの投資を選んで登録してしまいました。

その後というと、すぐにあのリーマンショックが起こりました。始めたばかりでしたが私の積立金は急激に半分以下になってしまいました。その後、会社を辞めた後も、辞めた会社に401Kの契約を残してきたので1年に1回ほど、

お金がどうなっているか辞めた会社の経理担当者から手紙が届きます。手紙が届くことで会社はまだ存続しているんだということを考え、お金もまだあることを確認してほっとしています。現在はコロナ禍の真っただ中、今度の401Kの手紙はいつ届いて、いくらになっているか非常に心配です。ゼロにならないければ、そこからまた増えることも可能なので「頼む、ゼロではないように！」と祈る日々です。

余談になりますが、65歳を過ぎたらこの年金を受給する手続きをアメリカで行わなければなりません。正直、今から気が重いです。私はある程度の英語がわかりますが、それは理系英語で、ある程度限られた単語の英語です。受給手続きのためにはいろいろな法律用語を含む書類を読まなければなりません。保険、雇用契約、税金などいろいろやりましたが、正直、かなりの日数と時間を要しました。インターネットにいろいろな情報があるので、“アメリカの401Kを日本で受給する”で検索すると私のような方用の説明があり、これを読むとちょっと安心します。皆さんも海外での手続きが分からない場合には、いろいろな経験を持つ日本人が情報を載せてくれているので、それらを参考にしてはいかがでしょうか。ただし、間違った情報、詐欺的な情報もあるので、情報をむやみに信じることはやめましょう。あくまで複数の情報源から情報を集めて判断することが必要です。

貯金が消えた！

コーネル大学でもらった給料をコツコツとため、数百万円貯金しておきました。コーネルを離れるときに忙しかったため、その貯金をそのままにしてサンディエゴに移動し、その後、日本に帰国して神奈川大学で働きだしました。神奈川大学在職中の2016年夏に久しぶりにコーネル大学に滞在したので、そのお金を引き出して滞在費にしようと考えていました。アメリカの銀行は日本と違って通帳というものがなく、小切手とATMカードあるいはクレジット付カードのみです。貯金していた銀行が当時はHSBC Bankでしたが、HSBCがイサカから撤退したため、私の口座がローカルのFirst Naiagara Bankに移っていました。この移動については連絡があったので、私は認識していました。滞在1日目の朝に運良く滞在したホテルの近くにその銀行の店舗があったので、HSBC Bankに以前の口座があって、これがクレジットカードである、お金を引き出したいということを伝えました。ここからが修羅場の始まりです。窓口係の女性は、アメリカらしく横柄に口座がないことを私に伝えてきました。私が食い下がっていると、店長らしき女性がでてきて店長ブースに私を通し、「いろいろ調べましたがありません。」と言われてしまい、事情をいろいろ説明して30分程粘りましたが、どうにもならず、銀行から撤退。大学に行く予定でしたが、あまりにショックだったので、ホテルで悩みぬいてもう一度、午後銀行の店長に会いに行きました。銀行に行くと店長からUnclaimed Foundではないかと言われました。私の頭の中は？？？です。詳しく聞いてみると長く口座を使わないと口座が凍結され、ニューヨーク州に管理されてしまうということでした。HSBC Bankにある時点で凍結口座になってしまったのではないかといわれました。この書類に記入してニューヨーク州に提出してみたらどうかと言われました。ここまで来たらやるしかない書類の中身を見ましたが、全くわかりません。そこで、もう一度、銀行に行って、書類の書き方を教えてくれるようお願いし、一緒に書類を作ってもらい、手助けのお礼を十分に言った後、すぐに30分歩いて郵便局に書類を郵送しに行きました。この日はこの一連のトラブルで大学には行

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさん「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

 フォロー

けずに、受け入れ先のアプルー教授には夜に「トラブルがあったので今日は大学にあいさつに行けなかった。明日の午前中には何う。」と連絡して寝ました。すぐに眠れたのかどうかは記憶にありませんが、ものすごい心に負担があった一日でした。

書類がニューヨーク州の担当部署に届いているかが心配になったので、コーネル大学を離れる1週間前ぐらいに、以前の滞在の時からお世話になったコーネル大学の産学連携のコーディネーターの知人Paulに事情を話して、ニューヨーク州の担当部署に電話をかけてもらい、書類が受け取られて処理が進んでいることを確認してもらいました。また、何かあった場合には、Paulに連絡がいつて対応してくれるようにすることもニューヨーク州の担当部署にFaxで送信してもらいました。

相変わらず私の英語はつたないものでありましたが、大金がかかっているのに英語ができない恥ずかしさは全く忘れ、ただただ英語が通じないことにいら立ちを感じながら、いろいろな人の手助けを受けてどうにか手続きを進めました。最終的に日本の私の自宅に数100万円の小切手が届きました。この小切手は次回のアメリカ滞在において別の口座に貯金しました。この口座はちよくちよくチェックするようにしているので、凍結口座にはなっておりません。皆さんも口座の管理はちよくちよくしましょう。アメリカではデロ等の問題もあるので、口座は政府や州でかなり厳しくチェックが入っているようです。皆さんも、もしアメリカで少しでも生活したことがあるのなら、一度アメリカ政府と滞在した州のUnclaimed FoundあるいはUnclaimed Moneyのサイトで自分の名前を検索してみたいかがでしょう。何かのお金が凍結されているかもしれません。

同僚が消えた！

2009年ごろ、私がサンディエゴの会社に勤めているころ、朝会社に行くと、人は働いているがどうもいつもの活気はなく、重苦しい雰囲気は漂っていました。それほど従業員数は多くないので、数名の人がいないことに気づきました。仲の良い同僚と雰囲気が重いねという話をすると、来ていない数名が突然解雇になったということを言い出しました。アメリカの場合、雇用契約に突然解雇しても良いというような項目がついているらしいので（正直、私も雇用契約にサインはしたが、そのようなことが書いてあるかを確認していません）、このようなことは日常茶飯事ということです。解雇された人と親しい人が今日の朝早く電話で話しをしたところによると、昨晚遅く、会社の上部から電話がかかってきて、朝7時に会社に来てくれということ呼び出されたということ。朝行くと、即座に退職を言い渡され、社員が出勤してくる前に会社を出るように言われたということです。解雇になった人の机を見ると、昨日まで働いていた痕跡と今日も働くつもりでいた感じが残されており、急であったことがわかるものでした。日本でしたら、自分の身辺をきちんと片付けて、お世話になりましたということで退社しますが、まさにアメリカ、解雇を言い渡された時点で自分の机には戻れず、ただ個人のを会社の人たちが立ち会ったうえで持ち出します。映画の世界だけであると思っていたことが、私の世界でも起こり、唖然としました。

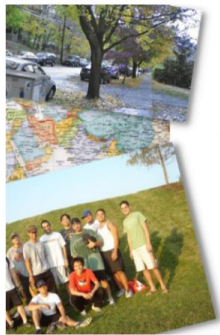
よくよく考えると解雇の前日に会社の出資者(通称エンジェル)たちが会社に来て、会社の上部の人から研究開発の進捗状況の説明を聞いていました。

来て、会社の上層部の人から研究開発の進捗状況の説明を聞いていました。その中で進捗が思わしくなかったため、人件費削減を言い渡されたのでしよう。会社の上層部は苦渋の決断だったのでしょうか。しかし、解雇された人の中には働き始めて2か月の人もいたので上層部の行き当たりばったりのマネージメントには疑問が残る結果となりました。私は英語が得意でないので、社員がどんな感情を持っているのか、完全にはわかりませんが、この辺から、会社の中で退職する人がぼつりぼつりと出てくるようになりました。私もその中の一人ですが、非常にタフさを要するアメリカの雇用形態です。ちなみに多くの同僚がこの会社で働く前に別のところで働いた経験があり、日本人の雇用に対する考えと違い別の会社でまた働くさという考えと、労働者の流動があるからこそ、やっていけるのではないかと思います。

このようなシビアな労働環境ですが、いただける給料は非常に良いものとなっています。アメリカの場合、日本のボーナスに当たる賞与はありませんが、月給が非常に高いです。10年経過した私の日本での給料とあまり変わらない額を当時はもらっていました。また、1度だけ研究開発が完了したのでボーナスがでたことを記憶しています。給料の契約をするときに会社の株を安く買わないかということ交渉されました。私は会社に長くいるつもりも無かったので、会社の株は買いませんでした。現在もこの会社は存続しているので、株を買って利益を得れば良かったかなと少し後悔しています。会社の中にはマシンショップと呼ばれる研究開発の機材を作ってくれる部署がありました。その部署のリーダーは朝5時から仕事を始めて、14時に仕事を終わることを会社の了解を得て行っていました。話によると、その人はサーフィンが趣味だそうで、仕事が終わってからサーフィンをしに海に行くということです。サンデイエゴで働くこともサーフィンが目的だそうです。実力がある人が本当に自由に暮らす社会「アメリカ」、と実感しました。

もっと、神奈川大学のことを知ってもらいたい。たくさんの「人」が行き交い、新たな可能性が生まれる場に。

+ フォロー



エピソード

世界へ羽ばたけ

私が海外で体験した様々な文化の違い・失敗・楽しかったこと等をご紹介いたします。これを海外での注意書として読むか、海外での失敗談として笑って読むか、いろいろな読み方があると思います。どちらにしても深く考えずに、このようなこともあるのだから気楽に読んでもらえればと思います。

エピソード

♡ 9

KU 神奈川大学ノート
2023年2月16日 15:37



◀第五章 お金・仕事

長かった文章もこれで終わりです。旅行の必携の書というよりは、私の思い出話に終始してしまった感があり、最後まで読んでいただけたことに感謝を述べたいです。私が海外に住んだのは2005年から2010年春までの5年間で、その後、新型コロナウイルスの流行になる前には少なくとも年に1度は海外に出かけていました。しかし、その後、3年間に渡って海外に行けておりません。時間はかなりすぎており、世の中が大きく変わっていることで私の経験談がどこまで役に立つかもちょっと不安なところがあります。コロナウイルスの流行前に中国を訪問した時には、中国社会がほとんどスマートフォンでお金の決済を行っていたため、旅行者の私は駅ではどこで現金で切符を買うのか、路線バスに乗ったときの支払いはどうするかなど新たな問題が出てくることに直面しました。一方で、世界が大きく変わっていることを肌で感じ、どう変わっていくのを私は見たい、感じたいと思いました。そろそろ新型コロナの流行が沈静化して、世界がまた開きだしています。コロナ後の新たな世界がどのように変わってくるのかを見て、その中で皆さんも生き生きと活躍してください。

2023年2月 松本 太

松本 太

工学部・電気自動車専用リチウムイオン電池、燃料電池

松本 太

神大の先生では、神奈川大学の教員情報やゼミ・研究室をご紹介します！気になる学部・学科、専門分野、キーワードで神大の...
www.kanagawa-u.ac.jp

神大の先生

-ゼミ・研究室-